

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300550		
法人名	株式会社 悠隆		
事業所名	グループホーム「牧水苑」	ユニット名	3F
所在地	宮崎県延岡市北小路8-10		
自己評価作成日	平成28年6月2日	評価結果市町村受理日	平成28年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;liyosyoCd=4570300550-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;liyosyoCd=4570300550-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ありのままのあなたらしさを大切にします」という介護理念は、異動等でスタッフの入れ替わりがあっても変わることなくスタッフ全員で取り組んでいる。その人らしさとは？と、日々、スタッフ、入居者の方やその家族と共に考え支えながら生活している。入居者の方、一人ひとりの得意な事、出来る事に着目した支援を心掛けている。既存のホテルを改築している為、ハード面では不便面があるが、各ユニットが工夫し、食事の準備の音や匂いを感じてもらったり、入居者の方の好みのメニューを用意する、昔ながらの家庭の行事を行う、季節の花を飾るなど、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。また、時には地域の情報を収集し、外食や買い物、祭りへの参加など、出掛ける機会も作り、地域とのつながりを持つようにしている。少しずつではあるが、牧水苑の理解を得られ、外食に行っても特別なメニューに変更して頂いたり、声かけをして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

既存のホテルを改築して利用し、1・2階は住宅型有料老人ホーム、3・4・5階がグループホームとなっている。また、敷地内に母体組織の介護付有料老人ホームがある。複数の施設の利点を利用者の生活に生かしている。利用者に不穏状態や帰宅欲求が生じた折には、各階のホームを訪問し、気分転換を図ったり、必要に応じて1階にある機械浴を利用している。また、訪問販売業者が敷地内のホームのロビーで店を開く時は、見学に出掛けるなど、活用している。また、管理者・職員は、利用者のペースに合わせた生活様式を尊重し、一人ひとりが培ってきた得意なことを、日々暮らしの中で再現できるようケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの異動等で入れ替わりがあっても、理念を共有できるように年間目標をたて、支援にあたっている。行事を計画する上で地域との関わりや自分らしさを意識し、計画を立てている。	母体組織の理念を基に、各ホームそれぞれが独自に考えた年間目標を立てている。管理者、職員は目標を共有し、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や行事などで地域へ積極的に出掛けるようにしている。最近では地域の方から様子を心配する声かけや行事に対しての心遣いをして頂くことがみられるようになってきている。	2年前に自治会に入会し、積極的に地域と関わるよう努めている。今月10日に行われる県下一斉クリーン作戦に、利用者と共に参加する予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアを受け入れたり、知人の面会時には様子を伝える、地域の店に出掛けるなどし、触れ合う機会を作り、理解して頂くよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を持ち、活動状況や事故などの報告を行っている。様々な意見を頂き、回覧にて報告をしているが、時にはスタッフで話し合いを行い、サービス向上に活かす機会としている。	ホームの活動・運営状況を報告すると共に、様々な意見交換がなされている。委員から、職員の名札着用の依頼があり、早速採り入れるなど、出された意見や要望を運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故等あれば直ぐに報告するようにしている。また、運営推進会議にて報告する機会がある。	行政機関が近くにあるということもあり、会議録や認定書などを届けに出向き、また、ホームの現状を報告したり、情報を得るなど、気軽に話し合える関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃からこのケアは拘束にならないかをスタッフ間で検討している。グループホームの職員だけでなく、1階の有料老人ホームの職員の方にも協力をして頂き、鍵をかけない施設に取り組んでいる。	拘束の弊害については、ホーム内での勉強会やニュース等の情報を採り入れ、確認し合っている。敷地内の各ホームが協力し合い、利用者の自由な生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するだけでなく、ニュースで虐待の事件が流れると、職員間で話をしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは十分理解しているとは言えないが、日常生活支援事業や成年後見人制度を利用している方がいるため、対応時に学ぶ機会を作るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明を行っている。料金改定等があれば、説明と同意書を取るようになっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の体制を説明している。利用者の方には普段から会話を心掛け、意向に沿うよう支援したり、必要に応じて説明を行っている。家族の方にも家族会や面会時に意見を聞くようにしている。	運営推進会議に、利用者、家族の参加があり、出された意見と要望を運営に反映している。利用者との日頃の会話や家族来訪時の会話の中で、意見をくみ取る努力をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議等で意見を交換し、反映できる機会を作っている。	職員会議やユニット会議、申し送り等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。記録様式の改善の意見を運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパスを作成し、将来の展望を持って働ける環境を整備している。スタッフも働きやすい環境となるよう協力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に教育委員会があり、個々に応じた研修が開催されている。外部の研修やホーム内でスタッフが学びたいことを計画し開催しており、学ぶ機会は多い。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会主催の研修会に参加したり、会社内の研修、会議等で交流や情報交換を行う機会がある。			

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を軽減するため、入居前に事前に自宅などに出向き、話をする機会を作っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも事前に面談し、話す機会を作っている。そこで信頼関係を築くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から話を聴き、情報を収集し、意向を確認している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方が経験した様々な事を生かし、残された力を発揮できるように努めている。それぞれが出来る事を行うことで、やりがいと自信を持つことが出来ている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族へお便りを送り、ホーム内での様子をお伝えしている。家族の協力で外出・外泊も出来ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの関係が途切れないように、電話や面会が出来るよう配慮している。	趣味である読書の本や音楽CDを調達したり、また、昔からの市行事である大師まつりや七夕まつりの見学に出掛け、知人に会う機会を作るなど、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の性格などを考慮し、トラブルになりそうな状況となれば距離を置いたり、間に入り、関係の悪化を防いでいる。利用者の方同士で体を気遣う会話や手助けをしている姿もある。			

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後の生活のダメージが少なくなるように、細やかな情報を提供している。必要があれば転居先に面会に行くこともある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中で、何気ない会話からも思いや希望をくみ取り、支援に活かしている。本人の意向の確認が難しくなってきた場合は、家族からの情報や生活歴に着目し、本人らしい生活の支援を目指している。		利用者の生活歴を参考にしている。また、日常においても、話しやすい雰囲気づくりに留意し、声掛け時等に表情で真意をくみとる努力をしている。入浴時も話しやすい場となっており、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて基本的な情報をまとめ、その後生活をしていくうえで得た情報を書き足し、記録に残し、スタッフ間で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時や必要に応じて申し送りを行っている。個人記録は一目で1日の様子が分かるよう、記録様式を変更している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でスタッフの意見を聞いたり、アイデアを出し合っている。担当者会議や日常での会話から意向を確認し、その人らしい生活が送れるように計画を作成している。		本人、家族の意向や介護記録を参考にし、職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあればスタッフ間で検討し、介護計画に活かしている。記録も残し、スタッフが共通の認識を持てるよう配慮している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いにこたえる事ができるように、ユニット会議やカンファレンス、職員会議で話し合っている。必要があれば勤務調整やユニット間の協力、法人事業内にも協力を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市街地にあるため、祭りや催し物には参加しやすい。商店も近く、買い物で利用されている方もいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、望む医療を受けることが出来るよう、看護師、医師と連携を取りながら支援を行っている。	本人の今までのかかりつけ医となっており、家族が付き添い、受診している。状態に応じ電話やFAXで状況を報告し、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来苑し、健康管理に努めている。24時間、何か変化があった時、小さな気づきでも電話連絡等で相談に乗る事の出来る体制が整っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行うようにしている。入院中は定期的に面会へ行き、病院関係者や家族と情報交換を行うようにしている。退院時もアセスメントを行い、ホームの生活にスムーズに戻れるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療の契約時に医師と意向を確認しているが、重度化、終末期になった際にも再度確認している。家族、医師・看護師と連携を取りながら支援を行っている。	重度化や終末期支援についての指針が明文化されており、契約時に説明しているが、状態に応じ、随時意思を確認している。看取りの経験がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は研修会を開き、どのように対応すべきかを検討している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	有料老人ホーム、こみちの杜と合同で訓練を行っている。また、講習会にも参加したり、備蓄品を準備し、備えるようにしている。屋上には老人福祉施設であることを記し、誘導時に活かせるようにしている。	夜間想定や敷地内の施設との合同訓練を行っている。消防署の協力の下、はしご車が5階まで届くことの確認をし、ホーム内の東西出入口の防煙扉の有効性等の説明を受けている。今年の訓練には民生委員や区長の協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や指導にてスタッフ一人ひとりが気を付けようとして心掛けている。感情的な対応になりそうな時はスタッフ間で対応者を変えたり、話題を掛ける働きかけをしたり、協力して行っているところである。		誘導の声掛けに留意し、利用者一人ひとりの意見を尊重した対応を心掛けている。耳が聞こえにくい利用者には声を掛ける際は、大きな声でも語調に配慮するなど、誇りやプライバシーを損ねない対応を職員間で確認し合い、改善に向けて取り組んでいる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が望む生活が出来るように、普段の会話から意向を確認したり、過ごし方を決めることが出来るよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、食事の時間や場所を変えたり、買い物や散歩を急ぎよ取り入れたり、入居者の方の希望する生活が出来るよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力頂いたり、誕生日にプレゼントしたりし、その人らしいおしゃれを楽しんでいたっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を準備したり、外食や出前を取り、食の楽しみを味わって頂いている。また、一緒に作ったり、片付けや準備を入居者の方が担当したりと、スタッフと入居者の方が協力して行っている。		梅干しをつけたり、食材の下ごしらえなど、できることは一緒にしている。時には利用者と一緒に買い出しに行くこともある。職員と利用者は同じテーブルで同じものを食べ、食事が楽しくなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックしている。摂取量が少ない場合は好きな物を用意したり、時間をずらしたりし、少しでも摂取量が増える働きかけを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせたケアを行っている。義歯の洗浄もこまめに行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合わせた対応を行っている。必要があれば排泄チェックを行い、パターンを把握し、誘導を行っている。		風呂とトイレが一体になっており、段差が大きく、使用には少し難がある。利用している利用者もいるが、ほとんどがポータブルトイレを使用している。できる限りトイレで排せつできるよう、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の方では野菜が多いメニューを取り入れている。水分摂取を心掛け、乳酸菌飲料や牛乳、ヨーグルトを用意。運動も行うように勧めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の意向で入れるようにしている為、人によって入る回数は違いがある。間隔が開いた方には入るよう勧めている。		希望があれば、毎日でも夜間でも入浴が可能で、柔軟に対応している。各ホームは、各地の温泉気分を味わってもらったり、香りを楽しんでもらうなど工夫しており、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れ、昼夜逆転とならないように配慮しながら、好きな時間に休んで頂くようにしている。日中に活動的になる働きかけを行うこともある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管し、いつでも確認できるようにしている。誤薬を防ぐようチェック体制を整えたり、勉強会を開催し、意識づけを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話などから本人の楽しみごとや役割を把握するようにしている。それぞれの個性を活かした気分転換の方法を取っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフが対応するだけでなく、家族や馴染みのタクシー運転手にも協力を得て、外出している。今年の3月には大分県の蒲江まで外出に出掛けることが出来ている。		ホームの上階から眺め、行きたい場所を指定し、コンビニエンスストアなど、可能であれば出掛けている。近くの野口記念館の前にある「むかばきの滝」では、コイに餌をやるのも楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	3F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の残された機能に応じた管理の方法を取っている。管理方法に納得がいかない方もいるが、精神の安定とQOLを向上させる面での対応であることを伝えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線を取り次いだり、電話を使用したり、その方に応じた対応を行っている。夜間に電話を掛ける方には、相手との関係が悪化しないよう、かける時間帯などの配慮は行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花や写真を飾り、気持ち良い環境作りを心掛けている。また、室温や香り、室内の明るさにも気を付けている。	各ホームとも季節感のある作品を飾ったり、廊下にソファを置くなど、くつろぐことができるよう工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい場合、皆と過ごしたい場合、少人数の気の合う方と過ごしたい場合と、どのような状況でも心地よく過ごせる環境作りを心がけている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物、馴染みの物を家族に協力をもらいながら持ち込み、本人らしい居室となっている。	洋室や和室とそれぞれ特色があり、入口の段差に手すりを取り付けるなど、工夫をしている。読書や音楽を楽しむことができるよう、書棚やカセットを置き、その人らしい居室作りがなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面では不備があるものの、手すりを付けたり、名前を表示することで、安全安心に過ごせるようにしている。			